

土曜日等の授業を実施して 児童・生徒の授業時間等の確保を

問 平成8年に学校週5日制が実施され、その後の教育方針の見直しで、ゆとり教育や総合学習の授業時間の確保、学習内容の一部を簡素化した結果、学力低下や教職員の残業等の増加を招いている。

本市の、学校独自の特色ある教育の推進については賛成だが、授業時間が増えて、休み時間の削減や平日の7時間の設定は、望ましいことではない。

そこで、児童・生徒が、有意義な学校生活を送る時間を十分確保するため、春休みや冬休み、土曜日の活用について、これまでどう検討したか伺う。また、土曜日の授業を復活することについて伺う。

答 新学習指導要領の実施等により、授業時数が増加する中、教育効果を最大限に高

めるため、授業や学校行事だけでなく、休み時間や部活動、教職員の会議・研修等の時間も、従来通り確保できるようにすることが必要のため、現行の1週間あたりの授業時数を増加させないことを基本に、年間授業日数のあり方等について学校の意見を参考にしながら、検討を進めている。

この中で、必要な授業日数を確保できるように、さらに長期休業日や土曜日等を活用し、授業を実施できる仕組みを整備し、特に、土曜日の授業実施については、教職員の勤務条件等について県に要望しているところであり、引き続き検討していく。



冒険活動センターでの集団宿泊学習 小学5年生と中学1年生の2泊3日へ見直し

問 子どもの体験活動について、次の点を伺う。

①子ども時代の自然とのふれあいや友達との遊びは、大人になったときの「物事に対する意欲」や「人間関係能力」「職業意識」などに影響するという調査結果が、国立青少年教育振興機構から発表された。この調査結果について、率直な感想を伺う。

②平成23年度から、本市の小中学校における集団宿泊学習の内容が変わることだが、その内容と理由を伺う。

答 ①本市の目指す「人間力の高いひとづくり」をさらに効果的に進めていくためには、人間力の基礎となる力を身につけることができる子ども時代の体験活動が、必要不可欠であると認識しているところである。



▲冒険活動センター

②本市では、小学5年生はとちぎ海浜自然の家で、小学4年生と中学1年生は冒険活動センターで、集団宿泊学習を行ってきた。

そのような中、小中一貫教育と地域学校園の全市展開を踏まえ、より教育的効果の高い系統的な集団宿泊学習ができるよう検討した結果、来年度からは、心身の成長が著しい小学5年生と中学1年生時に実施し、良好な人間関係を形成する力の向上を図り、豊富なプログラムと専門のスタッフが揃っている冒険活動センターに場所を集約して2泊3日で実施することにした。

岡本駅の橋上化と東西自由通路 早ければ、平成25年度の工事開始を目指す

問 岡本駅周辺地区は、第2次都市計画マスタープランの全体構想においては、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成の中で、将来都市構造、地域交流拠点として位置づけられ、地域別構想においては駅西地区における駅前広場などの整備を含む「土地区画整理事業」を推進し、駅機能の強化と併せて、良好な居住環境の形成を図ることとなった。そこで次の点を伺う。

①岡本駅の橋上化について、今後の計画及び着工予定を伺う。

②岡本駅東地域の再整備について、今後の計画と着工予定を伺う。

答 ①岡本駅については、「岡本駅西土地区画整理事業」の駅西口広場の計画と併せ、橋上化を進めているところである。

現在は、橋上駅舎の形式などについて、JR東日本と協議検討しているところであり、今後、協議が順調に進めば、基本設計などの調査に着手し、早ければ平成25年度からの駅舎や東西自由通路などの整備工事の開始を目指していきたいと考えている。

②駅東口周辺地区の再整備については、橋上駅舎の形式や東西自由通路の位置と密接に係していることから、「駅西土地区画整理事業」や「橋上化事業」の進捗状況を踏まえながら、一体的な整備に努めていく。



▲橋上化が待たれるJR岡本駅